

## 年1回以上の JPS 論文引用を！

■ このたび 2010 年インパクトファクター (IF) が公表されましたが、日本薬理学会の機関誌である **Journal of Pharmacological Sciences (JPS) の IF 値は「2.260」**と昨年の「2.176」に比べて **やや上昇**しました。ご存知のように、IF 値は **最近2年間に**当該雑誌に掲載された総論文数を分母に、そして同期間に引用された掲載論文の回数を分子に計算されています。

■ したがって、計算上は分子の引用回数増加か、あるいは分母の掲載論文数低下が、IF 値の上昇をもたらすことは明白です。昨年ご報告致しましたように、JPS 掲載論文の引用回数は年々減少を続けておりましたが、今回は昨年の「818 回」に比べて **「938 回」と、120 回分の引用回数増加**が確認されました。過去4年間の JPS 掲載論文の引用回数が、2006 年：**888 回**、2007 年：**879 回**、2008 年：**842 回**、2009 年：**818 回**と年々減少していたことを考えると、この 120 回分の増加は画期的な結果と言えます。

■ IF 値自身の善悪については大きく議論の分かれるところかと存じますが、日本薬理学会の総意で大きな予算と労力を割く出版事業が、国際的に認知度が低い状況は看過出来ない事態かと存じます。恒常的に高い IF 値を維持するには、**最近2年分の掲載論文引用回数**を増加させる対策が必須かと存じます。つきましては、編集委員会も編集業務により一層の努力をする所存ですが、会員の諸先生方におかれましては、**最近2年分の JPS 掲載論文の積極的な引用**に、ご理解とご配慮を賜りますよう改めてお願い申し上げます。機関誌の国際的な認知度を高めることが、日本薬理学会の将来的発展に向けた国際戦略の一つと信じる次第です。会員の方々のご協力があれば、近い将来には目標値である **「3.0」を超えることも夢ではない**かと存じます。

■ なお、2010 年の投稿論文総数は 384 編 (うち 1 編は 6 月 30 日現在審査中) で、その中で国内からの投稿は 224 編 (58%) でした。採択論文総数は 187 編で採択率は約 49% でした。JPS 誌は学会機関誌としての性格だけでなく、国内情報を発信する国際誌としての性格の二面性を有しますが、会員の皆様におかれましては、**①投稿、②査読、③引用、および④購読**を通じて、JPS 誌の今後の発展にご協力とご高配を賜りますようお願い申し上げます。

2011 年 6 月 30 日

日本薬理学会編集委員会  
委員長 米田幸雄